

# おおくら 議会だより



そばの香り感じますか？



風水にふれる里  
第 **137** 号  
2023.秋

## もくじ

7月臨時議会・9月定例会	2P
決算審査委員会	3P
一般質問	4~9P
中央要望	10P

発行／  
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地  
大蔵村議会 0233-75-2111  
編集／議会広報常任委員会 年4回発行  
発行責任者／議長 海藤邦夫  
印刷／共栄印刷株式会社

7月臨時議会

# 令和4年度決算を可決認定

9月定例会

## 7月臨時議会

7月26日に臨時議会を開き、令和5年度補正予算(3会計)の審議と議員発議を行った。

## 9月定例会

令和4年度決算審査を中心とする9月定例会が、9月5日から8日の4日間の会期で行われ、令和4年度の一般会計・特別会計(8会計)の決算審査の他、令和5年度補正予算(7会計)、条例の改正等を審議・可決・議案審議に先立ち5名の一般質問が行われ、活発な議論が交わされた。

## 7月臨時議会

### 令和5年度補正予算

令和5年度補正予算3議案を審議・可決  
(庁舎関連委託料・林道管理・鳥獣被害・浄化槽ポンプ修繕等)

問 庁舎建設の説明は。

答 土地購入後、どのような形になるか検討中。

問 庁舎建設予定地の購入に関しての委託料1200万・補償費1770万が明示されていないのにこの金額の根拠は何か。  
答 測量、建物・立ち木・墓地等で専門家が算出した金額。

### 議員発議

新庁舎建設特別委員会設置に関する決議  
(新庁舎建設に関する諸事項を調査・検討する必要があるため)

## 9月定例会

### 令和4年度決算

一般会計の他7特別会計(決算審査を通し可決)

### 条例の改正

ふるさと味来館・村営バス設置及び管理の変更(ふるさと味来館の指定管理制度への移行も可能とする)  
(新県立病院へのルート変更及び運行距離)

問 料金、時刻表、新たな停留所の設置は。

答 料金は変わらず、ルート変更に伴い3分から5分長く時間を要する。新設は無い。

### 計画の変更

過疎地域持続的発展・辺地に係る総合計画の変更  
(新たな事業・整備の追加のため)

### 公の施設の区域外設置

村営バスの停留所を新庄市の区域内に設置  
(新県立新庄病院の移転に伴うもの)

### 人事案件

教育委員会委員の任命に同意  
★八鍬賢一(烏川) 再任

## 9/7 決算審査委員会

### 一般会計

#### 歳入

- ・不納欠損額の状況と人数  
2人、生活保護者と滞納の相続放棄。
- ・延長保育保護者負担金とは  
延長保育や学童の時間超過で、定時を過ぎた際の負担金。
- ・がん患者医療用ウィッグ乳房補正具購入費補助金の内訳  
県より1/2補助、ウィッグ3人、乳房1人。
- ・新聞利用の学習内容  
5年生以上10か月間クラスに新聞を配布、様々な活動の参考としている。
- ・ふるさと納税の内訳  
6973件の寄附の他、企業版ふるさと納税が1件あった。返礼品は最上鴨、米、宿泊券、酒等。

#### 歳出

- ・配布物が減る地区代表の手当  
配布だけが仕事ではないので変わらな
- ・コンビニでの書類交付システム  
4月6日より稼働し55件の利用、全体の8%、住民票、印鑑証明可能。
- ・家庭用、事業者用のごみ袋の使用の

#### 内訳は

全体で550万円、うち事業者用可燃物74万円、事業者用不燃物3.8万円。

・行政用のごみ処理は

業者と契約し市販のごみ袋は使用せず処理している。

・小型除雪機補助の利用者の集落の内訳

合海3件、通り・上竹野2件ずつ、清水・季の里・白須賀・大坪1件ずつ。

・肘折温泉の誘客とラジオの効果は

9~3月にYBCラジオで2460本流した。他にもホームページで紹介した。宿泊客は、令和1年は5.9万人、令和2、3年は4万人切ったが令和4年は5万人以上で効果はあった。

・合海地区村営住宅の風呂改修は

昨年3棟、今年3棟、来年4棟で完成。子育て支援住宅の遊具の保険加入は村では保守点検はするが、保険は加入していない。メーカー側が保証している。

・白須賀の流雪溝委託は現状のままか  
県管理で要望中。地元の同意を得て、詳細設計する。着工は早くても再来年。

### 特別会計

・清水合海線消雪の井戸の調整等の今後は  
合海センター付近目詰まり、1号線浚渫し水量を確保したい。不足した場合は来年度以降。

・学校教育指導主幹報酬について  
職員としての扱いであり、役場管理職と同等。

・高齢者保険の基準  
県内統一、2年ごとに見直し、医療負担は前年度の所得に応じて変わる。保険は2年ごと、負担額は1年ごと。



# 村政を問う

一般質問  
9月  
定例議会



## 一般質問とは？

村政全般に対し議員が質問し、意見を述べ村政をただしていくもので、大蔵村では1議員の持ち時間が45分です。

## 5議員が一般質問

5P

佐藤 勝 議員

○集落や農地の消滅危機をどう考える

8P

伊藤 貴之 議員

○若者定住のための住宅関連の拡充は図れるか

6P

佐藤 雅之 議員

○温泉地での「避難」の課題は  
○「マイナ保険証撤回」の真意は

9P

斉藤 光雄 議員

○庁舎建設は誰のためか

7P

早坂 民奈 議員

○人口減少に伴う若年層の定住確保は

今回、9月定例会の紹介は見出しだけでなく一般質問の内容も「くらっち」に掲載出来ました。

今後も、定例議会前に載せます、ご覧になり議場へお越し下さいね。QRコードで役場庁舎建設予定地も見ることが出来るよ。(おおくらくんより)



佐藤 勝 議員

## 集落や農地の消滅危機をどうするか 村長 地域住民の意識も大事

**問1** 数年前までは、農業や集落の後継者や嫁不足、高齢化が話題の中心となっていたが、今はその話題すらなくなった。

特に中山間地においては、作付け可能な面積はあっても耕作者がなく、放棄地になりつつある。村で積極的に事業を展開している基盤整備により、国からの作付配分はクリア出来、何の問題はないが、それにより、収量が少なく、作業が不便な山間地区の農地は必要なくなる。農地が不要となれ

ば、当然そこに住む必要もなく、移転も多くなり人口の流出も増大し、集落の維持は更に難しくなり、数年後には消滅する集落が出て来ても不思議ではない。

この事はある意味において人的災害時とも言える。自然災害を防ぐ事は難しいが、人的災害は施策や努力によってある程度は防げるのでは？

**答1** 何の施策もなく放置している訳ではない。あらゆる制度を活用し、地域の活性化に向けて様々なイベ

**問2** 環境や立地条件の違いは仕方ないとしても、補助事業や道路管理など行政側の考えに平場と山間部の扱いに隔りがあるように思えるか？

**答2** 隔りがあると言っている意識はなく、扱いも差別はない。むしろ、平場より多く予算を使っている。事業に関しては必要性などを考えて順次実行する。

**問3** 自然消滅と言う事がある。ある意味において一番重要な事かも知れない。理由は？

**答3** 人の考えには違いがあり、人的災害や、自然消滅等は考えていない。特に農地に関しては、地域が所持している農地全部を管理することが難しいのであれば、便利な農地を集約し法人化などを組織し、不便な農地は自然に返す事も考えられる。





佐藤 雅之 議員

### 温泉地での「避難」の課題は 関係者との事前の共通理 解の場を設ける

**問** 新型コロナウイルスが5類となり、一応の収束の中で人の移動が増加し、温泉地も来訪者や客が戻りつつある。他方、猛暑、台風、ゲリラ豪雨、豪雪と毎年「災害」が激甚化している。令和2年7月豪雨災害は記憶に新しい。その際も一部顕在化したが、避難等には観光地ならではの課題がある。地元住民に加え、「属性」の違う人々が混在している。①多言語化された案内板の設置が必要ではないか②避難所の収容能力との関係で地元住民と来訪者の

**答** ①案内板については、肘折地区で進めている「まるとりまるとハザードマップ」事業で検討している。その結果を待ちたいが、地元参加者が少ない。温泉地としての危機意識の高揚も課題だ。②避難所の収容能力との関係では、旅館等に宿泊している観光客の対応については各旅館が行うことが基本。災害により必

ずしも全員が避難所に避難する必要はない。旅館等の強固な2階や3階への避難も有効。それについて関係者の事前の共通理解が必要なので検討の場を設けたい。③「垂直避難」にかかわって旅館等への一時避難に関する事前協定は有効な手段として地元と話を進めた経緯がある。ただ、行政からの「押しつけ」とならないように「まるとりまるとハザードマップ」作成の際などに意見を聞きながら検討したい。



「まるとりまるとハザードマップ」作成のためのワークショップ（令和5年7月 肘折センターにて）

### 「マイナ保険証撤回」の真意は 国民の理解を得る継続的 な努力を国に要請

**問** 全国的にマイナンバーカードの紐づけ誤りによる個人情報漏洩の不安や来年初までに健康保険証を廃止し紐づける国の動きを巡り、国民の不安と関心が高まっている。8月に新聞社が全国市長村長に行ったマイナンバーに関するアンケート

では、県内では唯一、大蔵村が「健康保険証の廃止」に対して「撤回」を求めている。本来取得が任意であるマイナンバーカードに健康保険証を紐づけ、紙の保険証を廃止する国のやり方には、私も反対であるが、村長の「紙の健康保険証の

廃止を撤回」せよとの真意を問う。

**答** 行政サービスの向上のためデジタル化の推進は必要だが、全国で紐づけ誤り等が判明。国民が不安視する事例が発生した。また、現在使用している健康保険証を基本廃止するという方針によりマイナンバーカードを利用しない、できない方に医療を受けられないかなりの負担を要することになる。そのため、いったん立ち止まって国民の理解を得ることや点検検討を徹底する必要があるため「撤回」を表明した。その後、国は「マイナンバー制度及びマイナンバーカードに関する政策パッケージ」を公表し、紐づけの総点検や資格確認書の交付、期限の延長などを打ち出した。これらは自治体トップの意見が影響したものと考えられる。国民の理解を得る継続的な努力を国に要請しながら、デジタル化の推進を図っていく。



早坂 民奈 議員

### 人口減少に伴う若年層の定住確保は 地道な施策の展開が重要

**問1** 人口減少に拍車がかかりとうとう2900人を切ってしまった。毎年約1000人位減少し、10年後には2000人を切るのではと危機感を持っている。自然減少は致し方ないが、村から出ていく社会減少を防ぐ手立てを考えていかなければ加速し、特に若年層の減少はどうか。子育て住宅、高校生まで医療費無料など村独自で頑張っているが、減少のスピードを少しでも遅らせるために、子育て世代や、若年層との

対話を積極的に設け、意見を聴くのも良いのでは。親世代が見落としているものもあるはず。意見として、バスに学割が無い、村に遊び場がないなど、又、婚姻数も少なく出生数も少ないと諦めて良いのか、小さい事だが生活に密着した意見を重視し、住み良い村にするための考えは。

**答1** 令和4年4月に3000人を割り、5年5月に2900人を切る状況で、出生数も3年から2年続けて1桁となっている。

この傾向は今年度も1桁台の見込みで危機感を抱いている。村では子育て住宅、高校生までの医療費無料、保育の完全無償化、予防接種の補助金交付等の子育て支援を行っているが、他自治体間の競争となり、定住の決め手にはなっていない。若い世代との意見交換は若者ミーティングを組織し活動していたが、今はグループごとの活動と変化している。バスの学割としては無いが、通常料金より7割から6割引きで購入できる価格設定になっている。

婚活も郡内の町村や県のサポートセンターと連携している。人口減少の歯止めは難しい問題であり、様々な意見を伺いながら、地道な施策の展開が重要と考えている。教育にも力をいれ、地域学習に取り組み、住民の郷土愛と生活の満足度を充実させていく事も必要と考えている。

**問2** バス料金が安いのは理解しているがまとめて購入すると高額となり学割対象者は13名から14名で、少しでも補助できれば良いがどうか。

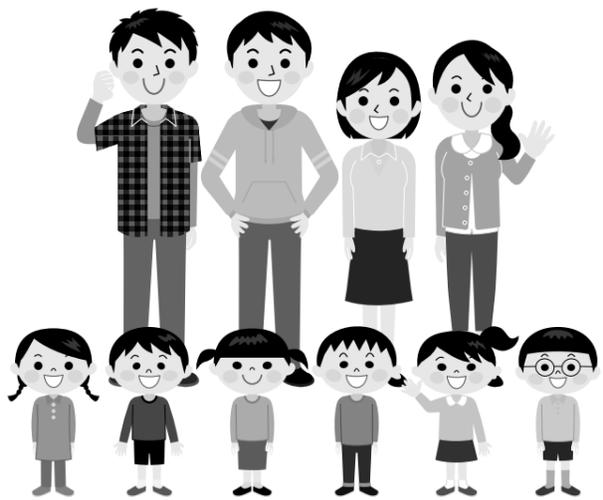
**答2** 今のところ考えていないが、担当課と精査する。

**問3** 若者ミーティングがグループ活動になった経緯は。

**答3** コロナのためグループ事となったのが大きい。今後はやったほうが良いと考えている。

**問4** 婚活の詳細は。

**答4** 婚活サポートには申し込みは無いが、3名の人々が別に申し込んでいると聞いている。5年で1件も結婚へ継ながらなかった。プライベートがあり、踏み込めない。





伊藤 貴之 議員

### 若者定住のための住宅関連の 拡充は図れるか 村長 村単独で住宅関連政策を 進める

**問1** 私には大蔵村っていいねと言って、定住し、働き、地元の食べ物を食べて、仲間と共に楽しく暮らすことが幸せという価値観を若い世代が持ってくるといふ夢がある。

現在、どんぐり団地3棟、分譲地7軒分が若い人向けの住宅関連の施設として合海地区にある。いずれも人気物件である。しかし、ある村民が結婚しても住むところがなくて他市町村に移

っていくというケースがあった。大蔵村に住みたくても住めないという状況がある。またどんぐり団地から退去するときに、他市町村に家を建てて転居するということも考えられる。このような人口流出に歯止めをかけたと思う。そのためには結婚したらずに住めるような住宅を増やし、退去時には村に住めるような住宅分譲地があってもよいのではないか？

**答1** 私も同じ思い。これまで協働の精神のもと、先人の遺志を受け継ぎ、村の地域資源を活用しながら、村民一人ひとりが安心して豊かな生活ができる地域づくりを心掛けてきた。県内でもいち早く子育て支援住宅の設置や保育料の完全無料化、各種奨学金の充実などの政策を進めている。若者定住に関しての住宅施策は需要があると見込んでいるので十分検討する必要がある。季の里地区にまだ2区画の残地があり、分譲にこだわらず村営住宅の建築も検討する。また、空き家も増えてきているので、それも土地所有者と連携して活用したい。買手は低コストで宅地を取得でき、売り手は処分できるという互いにメリットのある仕組みを作り、ホームページ上で村内定住希望者に情報提供できる仕組みも作っていきたい。また、住宅リフォー



ム支援事業も行っている。

**問2** 定住、子育て等の施策はよいが実を結んでいない。PRが足りないのでは？

**答2** 定住に興味のある若者に呼び掛けて一同に会して団地、分譲地、住宅、空き家、リフォームなどの相談を一手にできる会を開きたい。

人口を増やすのは難しいが、減らすのを緩やかにするようにしたい。

また、大蔵村単独で住宅を整備すれば入居者の所得制限がなくなる。分譲地を作れば、様々な補助金を使えばかなり安く土地が得られる。村単独で住宅関連政策を進めていく。



齊藤 光雄 議員

### 庁舎建設は誰のためか 村長 開示し、しっかりと検討する

**問1** 庁舎建設予定地周辺は、地域の鎮魂、慰霊の場であり、また火葬場が以前に存在し無縁仏の他、周辺は軟弱地盤で、人柱については先人の方より聞いたことがある。合海地域に禍が及ぶ事は無いか心配している。なぜ、この地と決めたのか。

**答1** 一つ一つの段階を踏み、各方面の代表者から、度重なる検討をいただき決定した。

**問2** 盛土材は、国交省より、最上川の河道掘削によ

る残土処分の相談を受けてのことか。

**答2** 残土処分の話は受けていない。必要があれば土砂をいただきたい。

**問3** 村道合海・大坪線のカーブ付近が出入り口で交通の惨禍を招きかねないのでは。

**答3** 交通の支障、事故が起きないように検討し、庁舎建設に関し漏れなく相談し、又設計業者と議員との会談も視野に入れ開示して行く所存。

**問4** 予定地の⑯筆の⑩筆はすでに所有権が大蔵村に移転し、7月26日の臨時議会前日に地権者に土地代金が支払い済み。

土地の周辺環境調査、地質調査も行わず購入したのか。

また、建物1件と土地3件の筆数分の土地について（地権者が安くて売らないうちで買ったことが言われるが）、1件大蔵省名義の移転はどうなっているのか。

**答4** 3月定例会で可決された、当初予算1千5百万円の中から7月25日に土地代金として支払われた。補償費1千7百70万円は、建物補償費・墓地補償費・立木補償費で有り、建物の権利者と1千5百万円で交渉が成立。墓地補償費2百50万円、立木補償費20万円。地質調査については、庁舎配置がある程度確定後に大蔵省名義の土地ついて

は、業務委託先のコンサルタント会社が該当地を図面化、境界確定後に山形財務事務所と確認後に契約。

**問5** 購入地に墓地が存在します、一般的に民地に墓地が存在することは無いと認識しているが、また墓の移転費用も含んでの購入か。

**答5** 個人所有地の墓地に關し、現在は禁止であるが、相続等での承継は引き続き使用可能で例外的に認められている。

墓地の補償費は、7月臨時会可決後の補正予算を充てている。

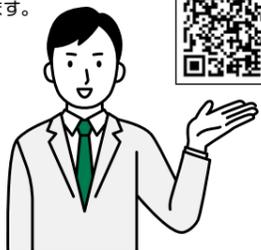
**問6** 新庁舎建設により内水になる事は無いと、断言した。

防災訓練の際、作の巻の排水ポンプ設備を見て、合海・清水において到底排出できる数では、無いと認識した。ここ数年で田んぼダム減少が著しく、農地転用が行われ、不動産の仕事も経験し、こんなに簡単に転

用されることが不思議である。地区民は水上がりなど予定していない。以前住んでいた、役場職員の方も、この村を去り清水・合海地区の魅力が無くなったと感じ、経過説明会で内水対策を同時に進めて行くと言ってもらい、本当の意味での安心安全に繋がっていただきたい。

**答6** 役場庁舎建設が内水を招くことが無いと、別に考えてもらいたい。大蔵村に合った内水施設整備が出来る様、村が一生涯命となり、村独自の施設整備の先行も考え、国・県への補助金について働きかけを探索して行く。

QRコードで役場庁舎建設予定地が見る事ができます。





# 中央要望



## 7件要望のうち特に今回4件を強く要望

コロナウイルスも5類に移行し、8月30日から31日の日程で4年ぶりに村長、議員10名で本県選出、加藤鮎子衆議院議員、舟山康江、芳賀道也参議院議員を訪問し、村に係る公共事業の予算確保などをお願いに上京しました。

内容は、平成27年に山形県へ移管された四ヶ村地区の集水井、集水ボーリングなど地すべり対策施設は、県の財源の不足によりほとんど維持管理されておらず、近年頻発する大雨災害に対し不安を感じているため、地すべり対策施設の維持管理予算の拡大。

次に、農業農村整備の予算確保や中山間地域の持続可能な農業への支援、農産物の適正な価格形成の実現など、資材、燃料などの価格の高騰が続いている現状で生産者の所得向上が実現できるような支援。

また、御法川信英衆議院議員(秋田、元国土交通副大臣)へ、近年各地で豪雨による被害が頻発していることから最上川中流直轄河川の整備促進、治水事業予算の大幅確保や白須賀堤防の嵩上げおよび作の巻堤防補強など強くお願いしてきました。

31日は、国土交通省草野慎一砂防部長を訪問し、地すべり国直轄事業として昭和37年から53年間総事業費188億円を投じ、地域住民の安全・安心に繋げていただいたことに感謝を伝え、地すべり対策施設の機能・性能確保のための維持管理予算拡大を強く要望してきました。



加藤鮎子 衆議院議員



国土交通省 草野慎一 砂防部長

議会広報 常任委員会			
委員	委員	副委員長	委員長
伊藤	須藤	斉藤	早坂
貴彦	敏彦	光雄	民奈

盛岡の保育園では小学校に入学する前に、和式トイレの練習をするとか。なぜなら、洋式トイレでないため、普通に考えれば改修すれば良いと考えるが、学校自体が古くて、他の改修が多く出来ないとこの事である。取材した若い記者が試しにしゃがんでみると未経験の為転んでいた。「えっ」と驚いてしまう。かつて日本人がお産をするときは安産が多かったそう、理由は和式トイレ利用の為、力みが上手だともいわれていた。年老いて足腰が弱くなり、和式は敬遠してしまうこの頃。若い人たちは使えるのだろうか。また、孫が缶切りの使い方がわからないと悪戦苦闘していた。今の缶詰は引つ張ればすぐに開けられる。昔といえども数十年前の常識が今は通用しない。何故か寂しさを感じてしまった。昔を懐かしみながら、子ども達に昔話を読み聞かせている。これは「ばあば」の役目であると信じて。

(早坂民奈)

### 編集後記

